

北澤翠香先生選評



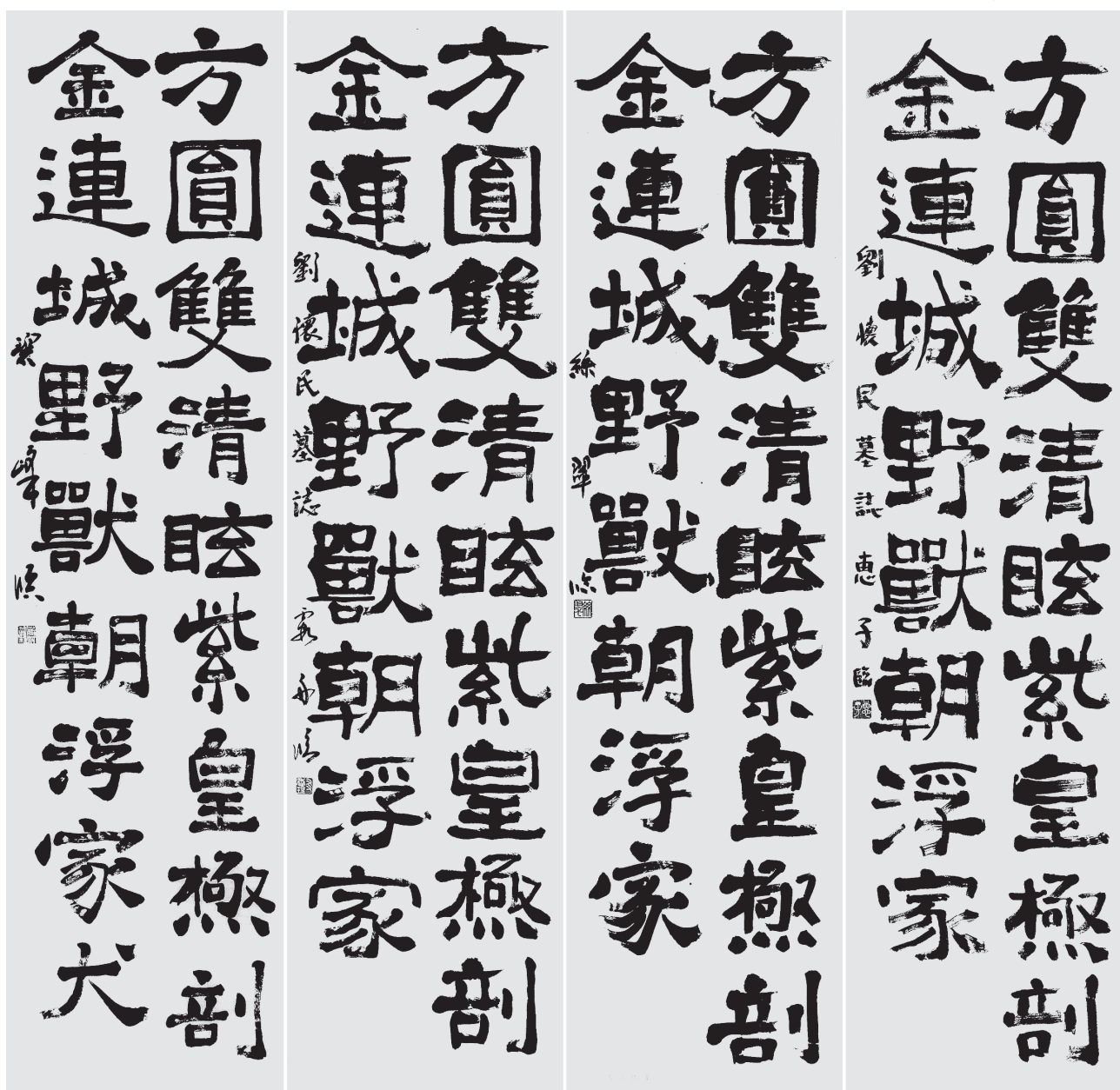
木下 朋春 推選
漢字の字形の変化・細線を生かし、五七・五七・七のリズムを見事に奏でる。明るく自由闊達な運筆が、ピタッと収まり迷いのない、魅了してやまない傑作。

佐藤 美子 推選
藏鋒を駆使し、鍛錬された強い線で、羊毛筆の可能性を最大限に利用した運筆の呼吸が、伝わってきます。「白砂にわれ泣きぬれ」が特に、白眉な作品です。

坂本 千陽 推選
随所に縦画を利かせ、紙面の疎密感を大事に、時折見せる細線、ひねりが楚々とした美しい流れを出す効果となった。明るく、品位ある趣を醸し出している。

古和田 香風 推選
濃墨で落筆を高くし運腕大きく力強い筆圧の線を大事に、一気果敢に挑戦し、豪快で安定感ある作品にしている。最後の纏め方も気を配り、好感度ある作品。

葛西玄涛先生選評



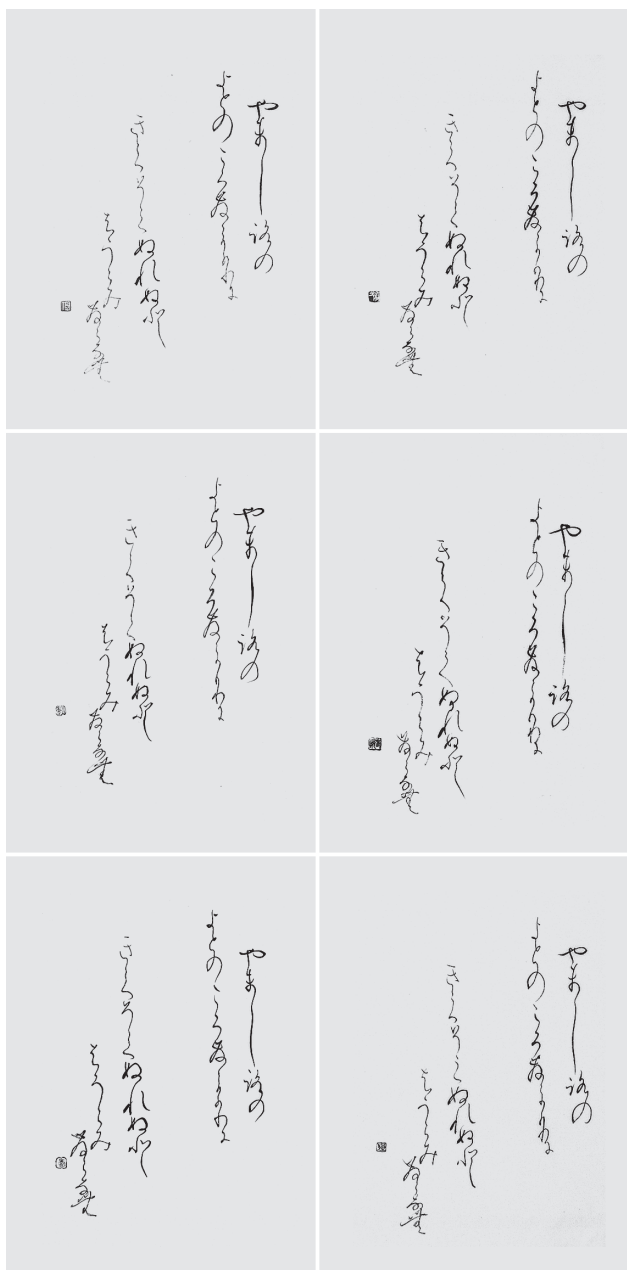
伊藤 恵子 推選
いろいろな味を持つ湯筆が見られ、とても楽しく鑑賞しました。一文字の中で筆運びの速度変化を激しく付け、活発に明るく運動していて、こちらも元気になる。

香川 絲翠 推選
参考作品の解説にある厚みのある線を多めにし、臨書されています。筆運びの速さからの鋭い線と、柔らかな動きからの美しい湯筆が、安定感の中に変化を生んだ。

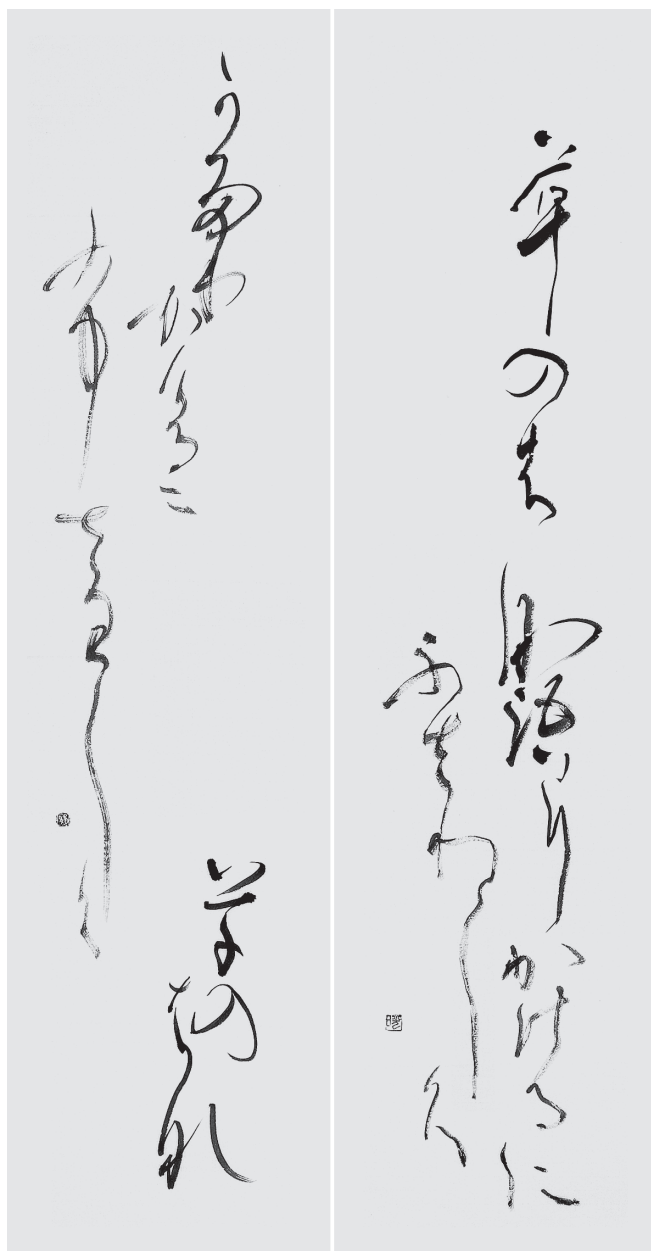
冲山 霞舟 推選
横への広がり強く訴えている。横画を水平に長めに引くため、肘を柔らかく動かし、遠くに筆を運ぶつもりで書かれている。この高い技術を軽々と使っている。

藤井 碧峰 推選
小さな文字と字間の余白が多めなことで完成度が高く、上品な作品になった。この構成でも、筆の弾力を生かした強い線が多いからどっしりして重みを感じる。

赤富士北祭先生選評



白幡陽子先生選評



堀山裕子 師範
書き出しのダイナミックな動きと、筆をしばった一路の「の」対比をよく捉えた作。文字の疎密もよく表現され完成度も高く魅力的な臨書作です。

田窪優子 六段
ほどよく筆圧をかけながら自在な筆の開閉が見事。濃淡の変化も効果的で終句の変化も絶妙です。ソフトさの中に線の骨格がしっかりとしたところも良い。

数井春悦 師範
ぐいぐいとリズムにのりながら重之集の豊かな雰囲気をよく表現している。筆をつきながら強く、そして各行の変化が見事なハーモニーを奏でている。

中野八重子 準六
いつも見事な創作作品を発表されていますが、このようなしつかりとした臨書姿勢があつてのことなのですね。豊かな書き出し、緩急の変化もありすばらしい作。

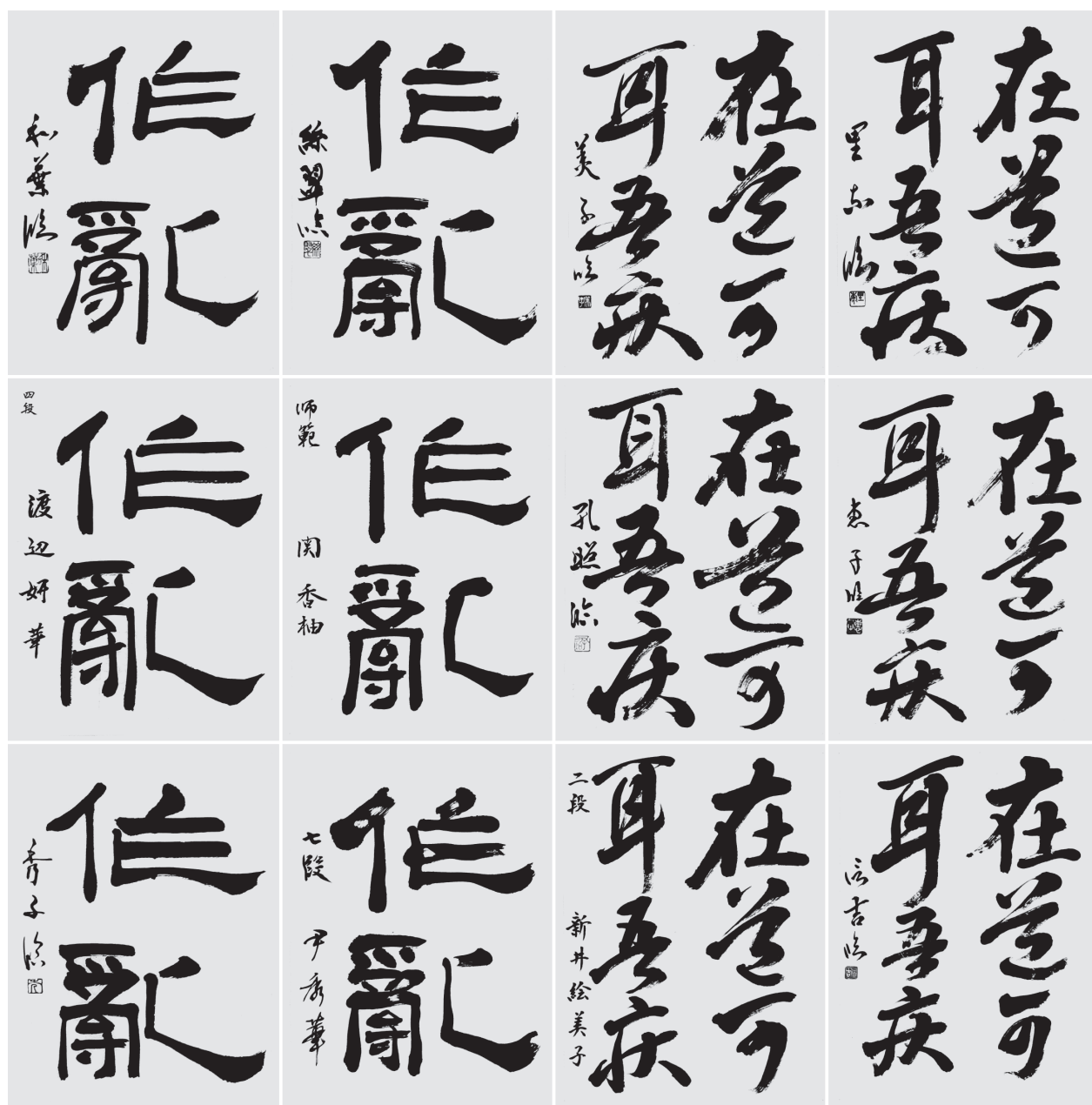
時岡寿代 五段
直筆を主体に柔軟に書き上げたあたためた味のある作。漢字をしつかりと勉強された跡が線に感じられ嬉しい作。墨量がやや多いのはお互いに課題にしましょう。

松下聖心 師範
ひかえ目な表現であるが縦画の方向など、しつかりと原帖を読みとり充実感がある臨書作。料紙に展開することを考えると機械漉の半紙の使用も良いと思う。

松田 きぬ子 推選
余白を効かせた散らしの妙、気負いない清々しい筆線。潤墨の下部から上部へとしなやかに移ろう墨彩一段と冴え、爽快な高原の情景広がる快作となりました。

山本晃子 推選
筆幹凛々しくさり気なく悠然とした動き「者・那」の呼吸に乗せた間の筆脈は絶妙。ポツと下ろした一点から渴筆の納め迄参考作を深く習熟した情趣ある魅力の作。

藤田壽樹先生選評



白澤里奈 師範
しつかりとした用筆で完成度が高い。文字の大小の変化を自然に、かつ巧妙につけ、力量の程を示している。落款も見事で流石は師範の作。

佐藤美子 七段
蔵鋒を多用した豊かで変化に富んだ線が素晴らしい。通貫したリズムの運筆は屈託なく一層の説得力がある。全体が響き合った味わい深い作。

香川絲翠 師範
隸書、札器碑に精通した作で達者な書きぶり。字形は勿論、波磔や転折起筆等見事です。章法や熟練の落款と相俟って感服です。

尾崎和葉 五段
札器碑の特徴である細線の中にも太細の変化を自然に織り込み魅力あり。特ににんべんや二つの波磔部分は絶品。当然全体としても練達の作。

伊藤恵子 準師
素直で明るく暢びやかな線が目を引き。細線を巧みに駆使しているため、紙面が広く明るく余白が美しい。奇を衒うことのない大らかな自然体だ。

宮尾孔照 準四
堂々と大胆な筆致で書かれた中にも丁寧な趣があり、感興の高さを感じさせる。潤渇の変化も有効に表現して、作品に奥深さを醸し出している。

関香柚 師範
真摯な態度で落ち着いた運筆の線はよく紙面に沈潜して目を引く。完成度の高い安定感抜群の作品。今後は運筆のスピードの変化にも注目を。

渡辺妍華 四段
一点一画を良く観察して、紙面を広く捉えた端正な臨書に好感を持つ。筆の弾力を生かした抑揚の効いた書線や墨量の変化の研究をして欲しい。

桜井信吉 準八
じっくりと落ち着いた筆遣いで適度な趣の作。大小の変化もあり上手に纏めている。二行目の文字の中心がやや左に流れて見える点が惜しい。

新井絵美子 二段
文字の形体や多彩な起筆の有り様を的確に捉えきりと表現している。一方で安定した筆捌きは凛とした強靱な線を生み魅力溢れる作とした。

尹秀華 七段
柔毛筆を日頃の修練を感じさせる巧みさで使いこなし、情感豊かに表現。気負いなく紙面を悠揚と捉えた素晴らしい作。押印しであると更に良。

金谷秀子 準三
扁平な字形の隸書の特徴を波磔のある線を強調して長く取ることによって表現。紙面いっぱい力強く横に暢びる構成が全体を支えていて佳。